

実際にクラウドを活用している中堅・中小企業に対するアンケート結果を通じて、クラウド提案成功の秘訣を探る

2012年版 SaaS/クラウド市場の実態と中期予測レポート

中堅・中小企業におけるクラウド活用は初期におけるコスト削減への過剰な期待を経て、現在ではユーザ企業が冷静な判断を下そうとしている局面にあります。ですが、そうした中でもクラウド活用の実績は少しずつ蓄積されつつあります。2012年版では「コラボレーション/顧客管理」「基幹業務」「運用管理」「基盤サービス(IaaS/PaaS)」のそれぞれについて、実際にクラウドを活用している企業に対して、現状の課題、導入効果、システム連携状況、今後の活用方針などの詳細を尋ね、今後のクラウド活用提案のヒントを探っていきます。また「個人向け無償クラウドサービス」の業務活用の可能性、IT関連サービス業にとってのクラウド活用基盤(OpenStack、CloudStackなど)の認知と活用状況についても触れています。

【調査対象とサンプル属性】

年商区分： 5億円未満 / 5億円以上～50億円未満 / 50億円以上～100億円未満 / 100億円以上～300億円未満 / 300億円以上～500億円未満

職責区分： 以下いずれかの権限を持つ社員
 ・企業の経営に関わる立場であり、IT関連投資の決裁を下す立場
 ・企業の経営に関わる立場であるが、IT関連投資の決裁には直接関わらない立場
 ・ITの導入/選定/運用作業に関わり、社内の経営層に対する提案も行う立場
 ・ITの導入/選定/運用作業に関わるが、社内の経営層に対する提案は行わない立場

従業員数区分： 20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3000人未満 / 3000人以上～5000人未満 / 5000人以上

業種区分： 組立製造業 / 加工製造業 / 流通業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他

対象所在地： 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

IT活用における管理/運用の人員規模区分：
 ・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、その都度適切な社員が対応している
 ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ社員が1名いる
 ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ社員が2～5名いる
 ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ社員が6～9名いる
 ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ社員が10名以上いる

IT活用における管理/運用の人員体制区分：
 ・ITの管理/運用を担当する社員のほぼ全員が本来の職責との兼任である
 ・ITの管理/運用を担当する社員の半分以上が本来の職責との兼任である
 ・ITの管理/運用を担当する社員の半分以上がIT関連の職務を専任で担っている
 ・ITの管理/運用を担当する社員のほぼ全員がIT関連の職務を専任で担っている
 ・ITの管理/運用を担当する社員は兼任と専任がほぼ半分である
 ・その他

ビジネス拠点のIT管理状況区分：
 ・拠点は1ヶ所のみである
 ・2～5ヶ所の拠点があり、サーバやネットワークといったインフラは全拠点で統一的に管理されている
 ・2～5ヶ所の拠点があり、サーバやネットワークといったインフラは各拠点で個別に管理されている
 ・6ヶ所以上の拠点があり、サーバやネットワークといったインフラは全拠点で統一的に管理されている
 ・6ヶ所の拠点があり、サーバやネットワークといったインフラは各拠点で個別に管理されている
 ・その他

※レポート内には上記の各属性別で次頁に示す設問項目を集計したデータが含まれます

調査実施時期： 2012年6月

サンプル数： 1000社(有効回答件数)

【設問項目一覧】(1/2)

[C1系列]

[C1系列設問]ではメールやグループウェアといった「コラボレーション」およびSFAやCRMといった「顧客管理」の分野におけるクラウド活用について尋ねている。

- C1-1.導入済み/導入予定の「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービス(いくつでも)
- C1-2.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービス
- C1-3.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービスの活用状況
- C1-4.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービスを最初に知ったきっかけ(いくつでも)
- C1-5.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービスに期待する導入効果(いくつでも)
- C1-6.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービスで得られた導入効果(いくつでも)
- C1-7.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービスにおける課題(いくつでも)
- C1-8.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービスを選定した決め手(いくつでも)
- C1-9.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービス導入/運用における実施体制
- C1-10A.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービス導入/運用における経緯(いくつでも)
- C1-10B.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービス導入/運用における位置付け(いくつでも)
- C1-10C.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」のクラウドサービス導入/運用におけるシステム連携(いくつでも)
- C1-11.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」クラウドサービスの活用方針
- C1-12.最も重要な「コラボレーションや顧客管理」クラウドサービスの月額利用料金総額
- C1-13.「コラボレーションや顧客管理」においてクラウドサービスを利用しない理由(いくつでも)

[C2系列]

[C2系列設問]では会計、人事/給与、販売/購買、生産、帳票、ビジネスインテリジェンスなどといった「基幹業務」の分野におけるクラウド活用について尋ねている。

- C2-1.導入済み/導入予定の「基幹業務」のクラウドサービス(いくつでも)
- C2-2.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービス
- C2-3.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービスの活用状況
- C2-4.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービスを最初に知ったきっかけ(いくつでも)
- C2-5.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービスに期待する導入効果(いくつでも)
- C2-6.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービスで得られた導入効果(いくつでも)
- C2-7.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービスにおける課題(いくつでも)
- C2-8.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービスを選定した決め手(いくつでも)
- C2-9.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービス導入/運用における実施体制
- C2-10A.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービス導入/運用における経緯(いくつでも)
- C2-10B.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービス導入/運用における位置付け(いくつでも)
- C2-10C.最も重要な「基幹業務」のクラウドサービス導入/運用におけるシステム連携(いくつでも)
- C2-11.最も重要な「基幹業務」クラウドサービスの活用方針
- C2-12.最も重要な「基幹業務」クラウドサービスの月額利用料金総額
- C2-13.「基幹業務」においてクラウドサービスを利用しない理由(いくつでも)

[C3系列]

[C3系列設問]ではPC運用管理/セキュリティ、Webやメールのセキュリティ、仮想デスクトップ、バックアップといった「運用管理」の分野におけるクラウド活用について尋ねている。

- C3-1.導入済み/導入予定の「運用管理」のクラウドサービス(いくつでも)
- C3-2.最も重要な「運用管理」のクラウドサービス
- C3-3.最も重要な「運用管理」のクラウドサービスの活用状況
- C3-4.最も重要な「運用管理」のクラウドサービスを最初に知ったきっかけ(いくつでも)
- C3-5.最も重要な「運用管理」のクラウドサービスに期待する導入効果(いくつでも)
- C3-6.最も重要な「運用管理」のクラウドサービスで得られた導入効果(いくつでも)
- C3-7.最も重要な「運用管理」のクラウドサービスにおける課題(いくつでも)
- C3-8.最も重要な「運用管理」のクラウドサービスを選定した決め手(いくつでも)
- C3-9.最も重要な「運用管理」のクラウドサービス導入/運用における実施体制
- C3-10A.最も重要な「運用管理」のクラウドサービス導入/運用における経緯(いくつでも)
- C3-10B.最も重要な「運用管理」のクラウドサービス導入/運用における位置付け(いくつでも)
- C3-10C.最も重要な「運用管理」のクラウドサービス導入/運用におけるシステム連携(いくつでも)
- C3-11.最も重要な「運用管理」クラウドサービスの活用方針
- C3-12.最も重要な「運用管理」クラウドサービスの月額利用料金総額
- C3-13.「運用管理」においてクラウドサービスを利用しない理由(いくつでも)

【設問項目一覧】(2/2)

[C4系列]

[C4系列設問]ではPaaS(システム開発/運用の環境がサービスとして提供されているもの)やIaaS(ハードウェアやネットワークがあらかじめ用意されているデータセンターサービス)といった「基盤サービス」に関連したクラウドサービスの活用について尋ねている。

- C4-1.導入済み/導入予定の「基盤サービス」(いくつでも)
- C4-2.最も重要な「基盤サービス」
- C4-3.最も重要な「基盤サービス」の活用状況
- C4-4.最も重要な「基盤サービス」を最初に知ったきっかけ(いくつでも)
- C4-5.最も重要な「基盤サービス」に期待する導入効果(いくつでも)
- C4-6.最も重要な「基盤サービス」で得られた導入効果(いくつでも)
- C4-7.最も重要な「基盤サービス」における課題(いくつでも)
- C4-8.最も重要な「基盤サービス」を選定した決め手(いくつでも)
- C4-9.最も重要な「基盤サービス」導入/運用における実施体制
- C4-10A.最も重要な「基盤サービス」導入/運用における経緯(いくつでも)
- C4-10B.最も重要な「基盤サービス」導入/運用における位置付け(いくつでも)
- C4-10C.最も重要な「基盤サービス」導入/運用におけるシステム連携(いくつでも)
- C4-11.最も重要な「基盤サービス」の活用方針
- C4-12.最も重要な「基盤サービス」の月額利用料金総額
- C4-13.「基盤サービス」を利用しない理由(いくつでも)

[C5系列]

[C5系列設問]では「Evernote」や「Dropbox」といった個人向けでも無償利用が可能なクラウドサービスの業務用途での利用について尋ねている。

- C5-1.個人向けでも無償利用可能なクラウドサービスのうち、業務用途で利用している/利用したことのあるもの(いくつでも)
- C5-2.個人向けでも無償利用可能なクラウドサービスの許可状況
- C5-3.個人向けでも無償利用可能なクラウドサービスが業務用途でも利用可能となるために満たすべき事柄(いくつでも)

[C6系列]

[C6系列設問]ではIT関連サービス業を対象として、クラウド基盤の活用状況やビジネスとしてクラウドサービスへ取り組んでいるかどうかなどを尋ねている。

- C6-1.クラウド活用基盤の認知や活用状況
- C6-2.クラウドサービスへの取り組み
- C6-3.クラウドサービスへ取り組む理由(3つまで)

【クラウド市場規模】

本レポートには2012年から2016年までの国内クラウド市場規模の推移をプロットしたものを掲載している。

算出対象は年商5億円以上の国内企業が情報処理システムの構築/運用を目的に行う支出のうち、ノークリサーチのクラウド定義に該当するサービスの利用費用およびそれらに関連するインテグレーションやコンサルティングの対価としてユーザ企業が社外に支払う費用の合計である。

※ノークリサーチにおけるクラウドの定義は下記の末尾を参照

掲載グラフは2011年～2016年までの国内クラウド市場規模を形態別(IaaS、PaaS、SaaS)に集計したもの、および年商別(年商区分は年商5～30億円、30～50億円、50～100億円、100～300億円、300～500億円、500～1000億円、1000億円以上)の二種類。

本レポートのサンプル(調査報告リリース)は下記の各URLよりご覧いただけます。

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2012SaaS_usr_1rel.pdf
http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2012SaaS_usr_2rel.pdf
http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2012SaaS_usr_3rel.pdf
http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2012SaaS_usr_4rel.pdf
http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2012SaaS_usr_5rel.pdf

価格とお申し込み方法

【価格】99,750円(税込)

【発刊日】2012年9月27日

【媒体】CD-ROM (分析サマリ: PDF形式、集計データ: Microsoft Excel形式)

【お申し込み方法】弊社ホームページからの申し込みまたはinform@norkresearch.co.jp宛
にご連絡ください

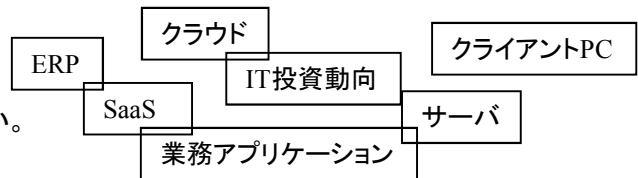
各種年間調査レポートのご案内

ハードウェア、ソフトウェア、サービスなど様々なカテゴリを網羅した多数の年間調査レポートを発刊しています。
多くのIT企業様が中堅・中小企業市場をウォッチする有効なツールとして購読されています。

豊富な年間調査レポートを提供

年間調査レポートの一覧についてはこちらをご参照ください。

<http://www.norkresearch.co.jp/result/report.html>



カスタムリサーチのご案内

「カスタムリサーチ」はクライアント企業様個別に設計・実施される調査とコンサルティングです。

1. 調査企画提案書の提示:

初回ヒアリングに基づき、調査実施要綱(調査対象とスケジュール、費用など)をご提案させていただきます

2. 調査設計:

調査企画提案に基づき、具体的な調査方法の選定、調査票の設計/作成やインタビュー取材計画立案を行う

3. 実施と集計:

設計された調査を実施し、その結果を集計する

4. 分析:

集計結果を分析し、分析レポートを作成する

5. 提言:

分析結果を基にした提言事項を作成し、報告する

多彩な調査方法が活用できます。

定量調査(アンケート調査)

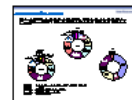
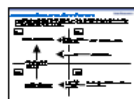
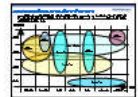
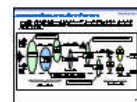
ユーザ企業の実態とニーズを数値的に把握したい
販社やSIerが望む製品やサービスの動向を知りたい

定性調査(インタビュー調査)

ユーザ企業が抱える課題を個別に詳しく訊きたい
販社やSIerがベンダに何を期待しているかを訊きたい

デスクトップリサーチ

競合他社の動向などを一通り調べたい



本内容の無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

NORK RESEARCH

株式会社 ノークリサーチ
調査設計、分析、執筆: 岩上由高
東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705
TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692

inform@norkresearch.co.jp <http://www.norkresearch.co.jp/>